

市場通り



江戸時代の富田は、酒造業を中心とした在郷町として栄えました。富田を東西に貫くこの道は、「市場通り」と呼ばれ、かつては多くの店が軒を連ねた中心通りでした。

店先では、昼間は跳ね上げ式の台に商品を並べ、夜にしまう「上げ店(揚見世)」で商売していたといえます。

大正13年(1924)、摂津富田駅が開設されると、商店街は駅前へと移っていきりましたが、現在も残る漆喰壁や格子窓などの町家が、往時の雰囲気を与えています。



江戸前期の富田『高槻市史』より

平成26年3月 高槻市教育委員会

市場通り

江戸時代の富田は、酒造業を中心とした在郷町(ざいごうまち)として栄えました。富田を東西に貫くこの道は、「市場通り」と呼ばれ、かつては多くの店が軒を連ねた中心通りでした。

店先では、昼間は跳ね上げ式の台に商品を並べ、夜にしまう「あげ店(揚見世(あげみせ))」で商売していたといえます。

大正13年(1924)、摂津富田駅が開通されると商店街は駅前へと移って行きましたが、現在も残る漆喰壁や格子窓などの町家が、往時の雰囲気を与えています。

平成26年3月 高槻市教育委員会

※01 市場通り 西之口町 — 東町 — 岡崎町

※02 津戸中道/高槻街道の三輪神社の前の東西に貫くこの道は、普門寺の門前町・「市場通り」と呼ばれた。

※03 この市場通りは、近郷からの客も多く「富田の台所通り」として栄え賑やかでした。

ここでは、大抵の商売が揃っていて文房具店・醤油屋・豆腐屋・自転車屋・・・・それ以前は髪結い、桶屋、麴屋、紺屋、菓屋、呉服屋などが軒を並べていました。大正13年、摂津富田駅が開通されると徐々に商店が駅前に移って行きました。